

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
日本リハビリテーション専門学校	平成9年12月25日	陶山 哲夫	〒171-0033東京都豊島区高田3-6-18 (電話) 03-5954-6511			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 敬心学園	昭和61年4月11日	理事長 小林 光俊	〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3200-9071			
目 的	作業療法士として即戦力を身につけるための専門教育を実施する。心豊かな人間性を持った医療者育成を目指し、知識や技術のみでなく総合的臨床能力を高めることに重点を置く。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療技術 専門課程	作業療法学科 (昼間部)	4年(昼)	154単位	—	平成17年文部科学省告示第169号・170号
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		92単位	29単位	30単位	30単位	30単位
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
140人	138人	7人	23人	30人		
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 	成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について S、A、B、C、Dの5段階評価、筆記試験、実技試験、平常の学習状況及び欠席状況を総合して評価する。 			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め：4月6日 ■夏 季：8月10日～9月11日 ■冬 季：12月25日～1月4日 ■春 季：3月9日～4月3日 ■学 年 末：3月6日 	卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> 卒業要件：本校に4年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。 			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対し担任が指導を行っている。 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 学業に支障がない範囲でボランティア活動に参加することを方針としている。 ■サークル活動(有・無) 			
主な就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界 病院、診療所、介護老人保健施設他 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 96.3% ■その他(任意) (平成26年度卒業者に関する平成27年3月時点の情報) 	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士国家試験受験資格 ・上級救命講習 			

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 12名 ■中退率 8.9%</p> <p>平成26年4月1日在学者138名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者126名（平成27年3卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更（不適性）、成績不振、健康上の理由等</p> <p>■中退防止のための取組 クラス担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、状況の把握に努めている。一定の成績に満たない学生に対しては、自己分析の上、学習方法の改善等の特別指導を行っている。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://nitiriha.com/</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生徒の就職先となる医療機関（病院・医院等）及び介護老人施設や福祉施設（身体障害者施設・介護老人福祉施設等）における作業療法士等の人材の専門性に関する動向を踏まえながら、最新の實務に関する知識、技術、技能などを十分把握・分析したうえで、当該職業実践専門課程の作業療法学科昼間部（4年制）の教育を実施するにふさわしい授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年3月5日現在

名 前	所 属
陶山 哲夫	日本リハビリテーション専門学校 校長
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士
二瓶 隆一	日本リハビリテーション専門学校 名誉校長
工藤 征四郎	日本リハビリテーション専門学校 副校長・総括事務長
畠山 敦	日本リハビリテーション専門学校 教務部長兼理学療法学科総括学科長
近野 智子	日本リハビリテーション専門学校 副教務部長兼作業療法学科昼間部学科長
篠田 良平	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科昼間部学科長
鈴木 雅男	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科夜間部学科長
深瀬 勝久	日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科夜間部学科長

(開催日時)

第1回 平成27年10月29日 15:00～16:00

第2回 平成28年 2月29日 15:00～16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では臨床的教育重視の観点から企業との連携による実習・演習等に関して、最新の実践的かつ専門的職業教育を行うことを基本方針として実践している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	リハビリテーション総合施設（1年前期）、病院・施設の作業療法部門（精神障害、身体障害、発達障害、老年期障害）（2年前期・後期）、障害者の就労関連施設（3年前期）にて、施設担当者の指導の下、見学を主体とした実習を行う。	伊奈病院、川越リハビリテーション病院、愛誠病院、江田記念病院、東所沢病院 平成26年度79施設、平成27年度45施設
臨床実習Ⅰ	身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害分野の病院、施設において、実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価を実施し、評価のまとめを行い、作業療法を計画する。	川崎協同病院、田上病院、上尾中央総合病院、平川病院、介護老人保健施設明日葉 平成26年度57施設、平成27年度43施設
臨床実習Ⅱ	身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害分野の病院、施設において、実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。臨床実習指導者の指導、援助	埼玉セントラル病院、石井クリニック、東京青梅病院、天久台病院、ふよう病院 平成26年度46施設、平成27

のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法行為を修得する。	年度 55 施設
--	----------

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

日本リハビリテーション専門学校教職員研修規程に基づき、専修学校の専門課程の職業実践専門課程の認定の趣旨に鑑み、時代の流れに沿った最新の医療・福祉・保健等に関する社会のニーズを反映した教育活動を実践していくため、これまで以上に、研究レベル及び実務レベルの医療や福祉又は保健等の学会や研修会に教職員が積極的に参加して、資質の充実向上を図っていくことを教職員研修等基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年3月5日現在

名 前	所 属
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あみず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://nitiriha.com/app-def/S-102/topics/wp-content/uploads/2013/12/議事録.pdf>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://nitiriha.com/evaluation>

授業科目等の概要

(医療技術専門課程作業療法学科学科昼間部) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			心理学	心理学の基礎を学ぶこと。心理学の概要を理解し、さらに人間の発達段階における特徴、心理学理論による人間理解と心理学的援助技法の基礎的知識を習得すること。	1 前	3 0	2	○		
○			哲学	医療従事者として必要とする論理的な思考力と表現力を鍛える。	1 後	3 0	2	○		
○			教育学	最近の教育事情を把握するとともに、教育学の基礎的知識を学ぶ。また、授業を通して、自分自身の学びを再点検すること、人間・社会等を理解する為の視野を広げることをねらいとする。	1 後	3 0	2	○		
○			社会学	人間がいかにして、社会的な存在となり、市民社会の成員になっていくのか、人間と社会の関係を通して理解する。人間が共生できる社会について学習し、考える力を養う。私たちの個人から社会集団へと変化する実態を通して社会を理解する。社会的人間や共生社会について、人権・コミュニケーション論のグループワークを通して、理解し、考える。	1 後	3 0	2	○		
○			生命科学	生命を科学的に理解するための基礎知識と思考を身に付ける。生命化学の基礎(生化学や分子生物学、バイオメカニクス)を学び、応用として具体的な事例を考えながら理解を深める。	1 前	3 0	2	○		
○			物理学	専門科目を理解するために必要な物理学の知識を習得する。現実の場面で物理学的な考え方が適用できるようになること。	1 前	3 0	2	○		
○			統計学	人間ならだれでも日常的に、現状を把握し将来を予測しようとする。ただそれは直感的・無意識的なので、ときにまちがったり他者とくいちがったりする。そこで、直感的・無意識的な行為を言語化・体系化したものが統計学である。統計学は、人間の自然で素朴な考えの延長であることを理解してもらいたい。	2 後	3 0	2	○		
○			保健体育	健康についての理解を深め、健康に影響を与える印紙が我々のライフスタイルとどのように関連するか学習する。	1 前	1 5	1	○		
○			体育実技	身体のしくみを自分自身の身体で感じ、臨床現場で役立つ実践的な運動効果の知識と技能を習得する。	1 後	3 0	1			○
○			英語 I	知識や技術は的確にコミュニケーション能力が発揮されてこそ、より有効に機能する。外国人と接する機会が増えている国際社会において、その手助けになるのが英語(英会話)である。この講義では机上の学習だけでなく時には体も動かし英語を「生きた言葉」として捉えるようにすると同時に、医療の専門用語についても身に付けていく。	1 前	3 0	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			英語Ⅱ	知識や技術は的確にコミュニケーション能力が発揮されてこそ、より有効に機能する。外国人と接する機会が増えている国際社会において、その手助けになるのが英語（英会話）である。この講義では机上の学習だけでなく時には体も動かし英語を「生きた言葉」として捉えるようにすると同時に、医療の専門用語についても身に付けていく。	1 後	1 5	1	○		
○			医学用語	医学、作業療法の専門用語を学ぶ。医学作業療法の専門用語について理解する。文章、文献などを読む、理解する。文章の書き方、レポートの書き方を学ぶ。	1 後	3 0	2	○		
○			解剖学Ⅰ	人体構造の理解を深める。骨・関節の構造を理解し、用語を習得する。	1 前	3 0	1	○		
○			解剖学Ⅱ	人体構造の理解を深める。筋肉の位置と構成を理解し、用語を習得する。	1 前	3 0	1	○		
○			解剖学Ⅲ	人体構造の理解を深める。神経系と感覚器の構造を理解し、用語を習得する。	1 後	3 0	1	○		
○			解剖学Ⅳ	人体構造の理解を深める。脈管系の構造を理解し、用語を習得する。	1 後	3 0	1	○		
○			解剖学実習	人体構造の理解を深める。内臓の構造・機能の理解。	2 前	4 5	1			○
○			生理学Ⅰ	人体の生理機能のうち、生命の基本となる血液・循環・呼吸・消化吸収のはたらきを理解し、基礎知識を身につける。	1 前	3 0	1	○		
○			生理学Ⅱ	人体の生理機能のうち、栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖・神経系一般について理解し、基礎知識を身につける。	1 前	3 0	1	○		
○			生理学Ⅲ	人体の生理機能のうち、神経系・自律神経・筋・運動・感覚について理解し、基礎知識を身につける。	1 後	3 0	1	○		
○			生理学実習	人体がもつ様々な基礎的な仕組みや働きについて、各自が被験者となり、またデータを取ることによって、知識を理解を深めることを目的とする。	2 前	6 0	1			○
○			運動学入門	人体の構造と運動のつながりを理解する。運動学の基本的な概念や用語を用いて運動を表現できるようになる。	1 前	3 0	1	○		
○			運動学Ⅰ	運動学の基本的な概念や用語を用いて、上肢の関節運動を記述することができる。上肢について、解剖学および生理学の知識をもとに、関節運動のしくみを説明することができる。	1 後	3 0	1	○		
○			運動学Ⅱ	解剖学および生理学、生体力学の知識をもとに、体幹・下肢の関節運動と筋の作用を説明できる。	2 前	3 0	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			運動学実習	正常なひとの運動・動作を観察、分析し、専門用語を用いて表現できるようになる。	2後	45	1	△		○
○			人間発達学	人間を発達の視点からとらえ、生涯発達の視点で展望できる事を目指す。人間を発達の視点で捉えることが、その後学ぶ臨床的知識の理解をより容易にすることができる。	1後	30	1	○		
○			人間工学	人間が取り扱う、道具、装置に関する工学的アプローチを知るによって、就労支援・復職指導・作業改善の支援方法を考える。またコミュニケーション機器等を用いてコミュニケーション能力を代替または拡大することを実際に体験する。	3後	15	1	○		△
○			臨床心理学	臨床心理学の基礎理論と心理臨床の技法の学習。	1後	30	1	○		
○			内科学・老年学Ⅰ	内科疾患の病態・検査・治療についての理解を深める。リハビリテーションの対象となる患者が内科疾患を有する率はきわめて高く、内科疾患の理解なしに適切なリハビリテーションを行うことは出来ない。	2前	30	1	○		
○			内科学・老年学Ⅱ	内科疾患の病態・検査・治療についての理解を深める。リハビリテーションの対象となる患者が内科疾患を有する率はきわめて高く、内科疾患の理解なしに適切なリハビリテーションを行うことは出来ない。	2後	30	1	○		
○			整形外科Ⅰ	四肢機能に関する骨、関節、筋、神経の障害発生機序と治療法原理の理解。	2前	30	1	○		
○			整形外科Ⅱ	四肢機能に関する骨、関節、筋、神経の障害発生機序と治療法原理の理解。	2後	30	1	○		
○			神経内科学Ⅰ	神経内科学総論を理解する。	2後	30	1	○		
○			神経内科学Ⅱ	神経内科学各論を理解する。	2後	30	1	○		
○			小児科学	小児科学では周産期から小児期にわたる健全育成と特有疾患について理解し対応できることを目標とする。	2前	30	1	○		
○			精神医学Ⅰ	作業療法における精神医学の役割についての理解	2前	30	1	○		
○			精神医学Ⅱ	作業療法における精神医学の役割についての理解	2後	30	1	○		
○			病理学概論	国家試験に出題される範囲内で病理学の基本的な知識を理解する。	1前	30	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			臨床医学概論	PT、OTの専門分野の狭い知識しか持たない作業療法士とならないために、医学全体の幅広さを知る目的で、毎回その道の第一人者の解説的講義を聞き、医療人として医学に対する真摯な認識の育成を目的とする。	3前	30	1	○		
○			リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学概論に関する基本的知識を習得する。	1前	30	2	○		
○			社会福祉概論	社会福祉、社会保障の分野の学習を通じ、必要とされる対象者（障害者等）に対してチームワークによる支援が出来るように援助いたしたい。	1後	30	2	○		
○			作業療法概論Ⅰ	作業療法士の資質と適性を学ぶ。作業療法の概念、用語を学ぶ。作業療法の哲学と歴史を知る。リハビリテーションサービスにおける作業療法の役割を知る。	1前	30	2	○		
○			作業療法概論Ⅱ	ケースシナリオのグループ検討を通して、専門基礎科目および作業療法に関する専門知識を統合すること。問題解決のプロセスと学習方法を学ぶこと。コミュニケーション能力の向上を図ること。	1前	15	1		△	○
○			作業療法概論Ⅲ	ケースシナリオのグループ検討を通して、専門基礎科目および作業療法に関する専門知識を統合すること。問題解決のプロセスと学習方法を学ぶこと。コミュニケーション能力の向上を図ること。	2後	15	1		△	○
○			作業療法概論Ⅳ	ケースシナリオのグループ検討を通して、専門基礎科目および作業療法に関する専門知識を統合すること。問題解決のプロセスと学習方法を学ぶこと。コミュニケーション能力の向上を図ること。	3後	15	1		△	○
○			作業療法管理学	作業療法における倫理について学ぶ。作業療法部門の管理・運営について学ぶ。	2後	15	1	○		
○			作業療法研究法	作業療法における研究の意義を考え、研究に必要な基本的な知識・技術を習得する。研究法の学習を通して、問題解決への積極的な意欲と探求心を養う。	3後	15	1	△	○	
○			基礎作業学	作業療法で用いられる「作業」について理解する。	1前	30	2	○		
○			基礎作業学演習Ⅰ	作業療法の手段として用いられるマクラメと木工について、基本技法（作業活動の特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特性と使用法・管理法など）を学ぶ。	1前	30	1		○	△
○			基礎作業学演習Ⅱ	作業療法の手段として用いられる革細工と籐細工について、基本技法（作業活動の特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特性と使用法・管理法など）を学ぶ。	1後	30	1		○	△
○			基礎作業学演習Ⅲ	作業療法の手段として用いられる種々の作業について、その基本技法（作業活動の特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特性と使用方法）を体験を通して学ぶ。	1前	30	1		○	△
○			身体障害評価学Ⅰ	身体障害分野の評価の基礎を講義形式で学習し、評価技法を講義及び実習の中で習得する。	1後	30	1	○		△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			身体障害評 価学Ⅱ	身体障害分野の評価の基礎を講義形式で学習し、評価技 法を講義及び実習の中で習得する。	2 前	4 5	1	○		△
○			身体障害評 価学Ⅲ	身体障害分野の評価の基礎を講義形式で学習し、評価技 法を講義及び実習の中で習得する。	2 後	4 5	1	○		△
○			身体障害評 価学演習	身体障害分野における臨床実習に必要とされる検査・測 定を演習形式で学習し、評価技法および作業療法士とし ての基本的態度を修得する。	3 前	3 0	1		○	△
○			発達障害評 価学Ⅰ	対象者の支援計画を立案する際に用いる質的評価法につ いて理解し、説明出来る。対象者の支援計画を立案する 際に用いる量的評価について理解し、説明出来る。	2 前	3 0	1	○		
○			発達障害評 価学Ⅱ	軽度発達障害の概念・枠組みについて理解する。感覚統 合理論・療法について学ぶ。症例を通して、疾患の理 解、評価と解釈、支援目標をあげる事が出来る。	2 後	1 5	1	○		
○			精神障害評 価学	精神障害のある人を少しでも理解し、援助するための基 礎技法を習得する。精神障害のある人に作業療法（作業 活動）を活用する為の基礎技法を習得する。精神科領域 の作業療法における「評価の基礎技法」を理解する。	2 前	3 0	1	○	△	
○			作業療法総 合演習Ⅰ	評価実習に向けた準備として、小グループでの演習およ び実習形式で学習し、面接、評価および治療技法を修得 する。	3 後	9 0	3		○	
○			作業療法臨 床セミナー Ⅰ	臨床実習に臨むにあたり、医療職・実習生としての基本 的態度と知識を育成する。また、臨床実習Ⅰ（評価実 習）終了後は、担当ケースの事例報告をもとに討論を行 い、臨床実習で得た知識と経験を共有する。	3 後	4 5	3		○	
○			身体障害治 療学Ⅰ	身体に障害を持つひとの身体的機能・心理面の評価とそ の結果の解釈と推論を行い、治療理論・技法とのマッ チングを行うことができる。	2 前	3 0	2	○		△
○			身体障害治 療学Ⅱ	身体に障害を持つ人の心身機能及び生活への理解を深 め、作業療法援助について学ぶ。	2 後	4 5	3	○		△
○			身体障害治 療学演習	身体に障害を持つ人の心身機能及び生活への理解を深 め、作業療法援助について学ぶ。	3 前	4 5	1		○	△
○			発達障害治 療学Ⅰ	障害についての基礎知識を学び、理解する。問題解決の ための評価・支援内容をあげる事が出来る。具体的支援 技術を学ぶ。	2 前	3 0	2	○	△	
○			発達障害治 療学Ⅱ	発達障害に対する作業療法の実際を理解出来る。症例を 通して、疾患の理解、評価と解釈、支援目標をあげる事 が出来る。	2 後	3 0	2	○	△	
○			発達障害治 療学演習	障害児・者の方と直接関わり、情報収集を行う。評価・ 観察を行いレポートとしてまとめる事が出来る。	3 前	3 0	1		○	△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			老年期障害治療学	「高齢期を取り巻く状況」「高齢者の心身の特徴」「認知症」などの知識を学習し理解する。障害を持つ高齢者に対する作業療法はもちろんのこと、現在健康である高齢者へのかかわりも含めて作業療法がどうあるべきかを学習する。	3前	45	3	○	△	
○			精神障害治療学Ⅰ	精神障害のある人への作業療法について学ぶ。	2後	30	2	○		
○			精神障害治療学Ⅱ	精神障害のある人を少しでも理解し、援助するための基礎技法を習得する。精神障害のある人に作業療法（作業活動）を活用する為の基礎技法を習得する。リハビリテーション支援としてのチームアプローチを目指す作業療法士の役割と意義を理解する。	3前	30	2	○		
○			精神障害治療学演習	精神障害に対する作業療法を実施する為に、基本的な障害に対する作業療法技法を実習、演習し習得する。	3前	60	4		○	
○			高次脳機能障害治療学	高次神経障害の評価および治療の基礎を講義形式で学習し習得する。	3前	30	2	○		△
○			日常生活活動学	日常生活活動（ADL）に関する基礎知識を学び理解する。作業療法士としてADLのとらえ方、臨床場面への活かし方などを学ぶ。	2後	30	2	○		△
○			日常生活活動学演習	疾患や障害別のADLについて学ぶ。疾患や障害別のADLアプローチについて学ぶ。	3前	60	4		○	△
○			義肢装具学	義肢（義手を中心に）と装具（上肢装具を中心に）の機能と適応について理解する。切断者に対する義手装着訓練について理解する。	2後	15	1	○		
○			ハンドセラピー学	手の外科領域における作業療法について学ぶ。ハンドセラピーの評価について知る。ハンドセラピーにおける治療訓練についてその概要を知る。スプリント作製を経験する。	3前	30	2	○		△
○			職業関連活動学	職業リハビリテーションの理念および障害者の就労支援の現状を理解する。職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割および職業関連活動に関する基礎知識と技法を習得する。	3前	30	2	○		
○			作業療法特論	作業療法に必要な国家試験レベルの知識・技能の確実な習得を図る。	4後	60	4	○	△	
○			作業療法総合演習Ⅱ	総合臨床実習に向けた準備として、小グループでの演習および実習形式で学習し、評価および治療技法を修得する。また、小グループでの演習形式で専門基礎および専門分野の知識の定着をはかる。	4通	150	5		○	△
○			作業療法臨床セミナーⅡ	臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて実習体験をより確かなものにする。	4通	45	3		○	
○			地域作業療法学	地域リハビリテーションの理念について理解し、それに関わる法制度、携わる職種について知る。また、職種間の連携について理解し、作業療法の役割と実際について理解を深める。	3後	30	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			生活環境学	作業遂行を促す物理的環境の種類・適応についての知識・技術・方法論を習得する。	3 前	30	2	○		△
○			臨床見学実習	病院・施設のしくみや役割および、その中で働く作業療法士の役割を理解する。作業療法の対象疾患や障害像を知る。社会人、医療人としての基本的態度を学ぶ。	3 前	45	1			○
○			臨床実習Ⅰ	作業療法の臨床の現状への理解と見聞を深める。対象者に対する検査・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察し、治療計画を立案する技術を体得する。	3 後	270	6			○
○			臨床実習Ⅱ	作業療法の臨床の現状への理解と見聞を深める。対象者に対する検査・測定・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察し、作業療法計画を立案、実施し、再評価を行い、作業療法の実際的な技術を体得する。	4 前	720	16			○
合計				86科目	3795単位時間(154単位)					